奨励品種 水稲「彩のきずな」の普及状況

品種特性

○　（「キヌヒカリ」に比べ）やや多収、短稈の中生品種。
○　ごはんの食感に関係する成分「アミロース」が低いため、粘りが強くもっちりとした食感が特徴の良食味品種。
○　暑さに強く、夏季の高温状況においても品質低下を防ぐことができる。
○　病害虫複合抵抗性を持ち、減農薬栽培が可能。

彩のきずな(左)　キヌヒカリ(右)

彩のきずな(上)
キヌヒカリ(下)

彩のきずな ロゴマーク
(平成27年度選定)

平成２８年産の作付状況

○　県東・県北地域を中心に、県内で約３,０００ｈａの作付がある（県内の水稲作付面積の約１０％)。
○　これまでの作付状況の推移

年産	２５	２６	２７	２８
作付面積(ha) 県内作付割合(%)	１００ ０．３	１,２００ ３．５	２,１００ ６．５	３,０００ ９．５
１等米比率（%)	９９	９３	８６	８９
参考：県産米全体	６７	７９	６８	８６

今後の予定等

○　日本穀物検定協会主催の食味ランキングにおける「特Ａ」評価の獲得を目指し、食味向上とブランド化を推進していく。
○　引き続き「キヌヒカリ」からの作付転換を進め、県主要品種として作付拡大を推進していく。

奨励品種 小麦「さとのそら」の普及状況

栽培特性

○　（「農林６１号」に比べ）多収、短稈、早生で耐病性（コムギ縞萎縮病、うどんこ病等）に優れる。

○　穂ができ始めるのが遅いため、凍霜害を受けにくい。

さとのそら(左)　　農林６１号(右)

さとのそら(左)　　農林６１号(右)

加工適性

○　「農林６１号」と同様の通常アミロース品種で、汎用性が高く加工適性に優れる。

○　製粉歩留が「農林６１号」よりも高く、製粉性に優れる。

○　麺の色相は、明るい黄色みを帯びる。

平成２８年産の作付状況

○　ＪＡくまがややＪＡ埼玉中央管内を中心に、県内で約４,０００ｈａを作付している（県内の小麦作付面積の約７８％)。

○　生産物は、ほぼ全量が全農へ集荷され各製粉会社へ供給されている。

○　種子は、ＪＡ埼玉ひびきの管内で約１００ｈａの採種ほを設置し生産している。

○　奨励品種には、茨城県、埼玉県、群馬県、栃木県、千葉県、神奈川県、三重県、岐阜県の８県が採用し、合計 14, 350ha 作付(平成 28 年産)されている。そのうち、茨城県、埼玉県、群馬県、栃木県、千葉県、三重県、岐阜県の各県は、「農林６１号」から作付を転換。

今後の予定等

○　実需者評価や北関東各県（群馬・栃木・茨城）の動向を踏まえつつ、需給に応じた作付面積の拡大を推進していく。

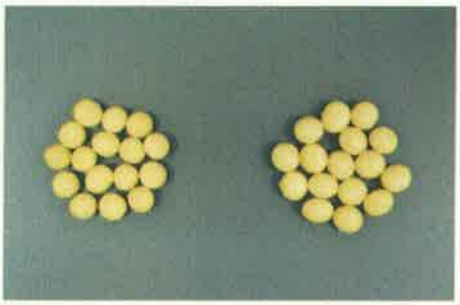
奨励品種 大豆「里のほほえみ」の普及状況

栽培特性

○ （「タチナガハ」に比べ）莢の着き始める位置が高く、裂莢がしにくいため、機械収穫適応性が高い。

○ 紫斑病、ダイズモザイクウィルスに抵抗性がある。

タチナガハ



タチナガハ(左) と 里のほほえみ(右)

タチナガハ(左) と 里のほほえみ(右)

加工適性

○ （「タチナガハ」に比べ）粗蛋白含有率は高く、粗脂肪は同等で豆腐、煮豆、味噌などの加工に適している。

平成２８年産の作付状況

○ ＪＡくまがや、ＪＡほくさい管内を中心に、県内で約２００ｈａを作付している（県内の大豆作付面積の約３０％）。

○ 生産物は、学校給食会や県内加工業者へ出荷されている。

○ 種子は、ＪＡくまがや、ＪＡふかや管内で約４ｈａの採種ほを設置し生産している。

今後の予定等

○ 作付面積及び採種ほ設置面積を順次拡大し、引き続き「タチナガハ」からの切替えを推進していく。

○ 安定生産及び適正タンパク質含量確保等の高品質化のため、栽培暦等を作成し普及拡大を推進していく。